

第52回日本油化学会進歩賞を受賞

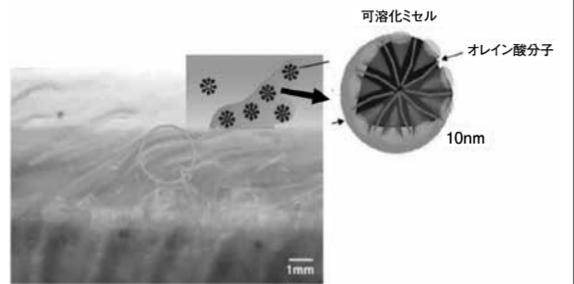
「散乱技術を用いた界面活性剤分子集合体の分子集合体の溶液構造解析」に高い評価

ライオンは、「散乱技術を用いた界面活性剤分子集合体の溶液構造解析」の研究実績が認められ、公益社団法人日本油化学会より、第52回日本油化学会進歩賞を受賞した。

主な研究成果は、「超濃縮衣料用液体洗剤に用いられる植物由来界面活性剤(脂肪酸メチルエステル型)」の研究で、MEEが静置した状態(混ざる状態)でも、皮脂由来の汚れでも、皮膚由来の汚れでも、オレイン酸を、自発的にミセルに取り込むことを世界で初めて検証し、オレイン酸の可溶性によりMEEのミセルが洗淨機構であることを突き止めた。

「超濃縮衣料用液体洗剤に用いられる植物由来界面活性剤(脂肪酸メチルエステル型)」の研究で、MEEが静置した状態(混ざる状態)でも、皮脂由来の汚れでも、皮膚由来の汚れでも、オレイン酸を、自発的にミセルに取り込むことを世界で初めて検証し、オレイン酸の可溶性によりMEEのミセルが洗淨機構であることを突き止めた。

●MEEによる自発的可溶性のイメージ



内側、親水基を外向け(水溶液)にしていること、熱力学的により安定な状態の分子集合体として存在する。その形状は、例えば球状に集合したミセル、あるいは二分子膜がさらに球状に丸まった閉鎖小胞(ベシクル)など様々で、このような分子集合体が「汚れを溶出する」「有効成分を可溶性にする」などの機能を発現することから、界面活性剤は洗剤や化粧品、医薬品など多岐にわたる分野で利用されている。

マンダムは8月1日、グループ内業務の委託先として国内子会社「マンダムウィル」を設立し、少子高齢化にともなう人口減少の業務委託を受ける。なお、2019年3月期業績に与える影響は軽微としている。

マンダム

グループ内業務を請け負う子会社設立、再雇用拡大へ

マンダムウィル概要/代表 三戸 武史/所在地 〒540-0015 大阪市中央区十二軒町5



4月23日の日本油化学会総会報告と油大氏、同日開催された表彰式にて、東京理科大学河合武司教授(右)とライオン代表取締役 山口恵市氏(左)が授賞状を授けられ、進歩賞を受賞した。



株式会社ファヴールマルシェ 代表取締役

山口 恵市 氏

The Voice

「ニッチ」、つまり万人で満足している消費者の中に、自分でも気づいていない潜在的なニーズを秘めている人は多い。そうした潜在層を顕在化させていくことで、ニッチなニーズを捉え、商品を企画できる、それがビジネスの成功につながる。山口恵市社長は語る。「万人受けする商品、ECという市場を活用

ECサイトを活用し

ニッチなブランドを創出

「ニッチブランド革命」の時代は、誰が読んでも理解しやすい内容になっている。「ECやSNSの発信力」が重要なポイントとして、ブランド創出を成功へと導いている。

マンダムウィルでは、マンダム商品や販促ツールの加工、セイルでは、マンダム商品の展開する上では、リアル店舗との融合も必要不可欠で、ECとリアルの連携システムを整えることが、売上を最大化することにもつながるといいます。

mandom Will マンダムウィル

(禁無断転載) ©R 本紙の全部または一部を無断で複製(コピー)することは、堅く禁じられています。本紙からの複製を希望される場合は、出版者著作権管理機構(JCOPY) (03-3513-6969)まで必ずご連絡下さい。